



よいことのために
手をとりあおう



2025-26 年度 RI メッセージ
国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ氏

Weekly Bulletin

藤枝南ロータリークラブ 会報



例会：毎週金曜日
会場：小杉苑 藤枝市青木 2-35-30
TEL：054-641-3321

事務局：藤枝商工会議所内
TEL：054-646-3919 FAX：054-643-2000
E-mail：jimukyoku@fujieda-south-rotary.jp

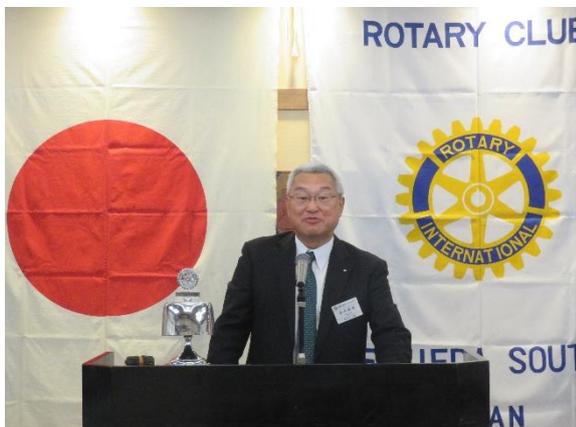
2025-26 年度
会長：鈴木寿幸 副会長：桑原 茂 幹事：加藤智之 副幹事：杉浦 聡

例会 第 1628 回 通常例会/小杉苑

ソング：君が代、奉仕の理想 ソングリーダー：山田幸保君

会長挨拶

鈴木寿幸君



皆さんこんにちは、本日も藤枝南ロータリークラブの例会にご出席いただきありがとうございます。

3 月は、ロータリーの重点分野の一つである『水と衛生』が主たるテーマです。日本に生まれ日本人と生きていく上で綺麗で清潔な水は欠かせませんが、この国はありがたい事に先輩方が未来を見据えて、上下水道整備などをしてきた事で、水道の蛇口を捻れば水が飲めますし、公衆トイレもどこにでもあります。劣悪な衛生環境などは普段目にする事は滅多にないと思います。

しかしながら世界の国々では途上国と呼ばれる国の地方都市などでは、日常からボウフラがいるような水を飲み、また衛生的に目を覆いたくなるようなトイレや生活環境などで過ごす人々がいるのもまた事実です。

さて、人間が 1 日に必要な水の摂取量はどのくらいかご存じでしょうか？体重でいうと 1 キロあたり 35ml とされており、これをご自身の体重と掛け合わせたものが必要な量となるよう

で、私でいうと体重は約 85 キロですから 1 日に約 3.0 リットル必要ということになります。

生きるために必要な水が十分に摂れない、または劣悪な環境ゆえに摂れないという人々を救うためにもこの「水と衛生」という重点分野がロータリーの 1 つのテーマであると理解しております。

2025 年の世界人口は、約 82 億人と推定されています。（国連人口基金 UNFPA）世界では約 20 億人（約 24%）が安全な飲料水を利用できておりません。（WHO/UNICEF, 2022）特にアフリカのサハラ砂漠以南や一部の南アジア、東南アジアでは、安全な水へのアクセスが限られています。

汚染された水を飲むことで、下痢やコレラ、赤痢などの水媒介性疾患が蔓延し、特に子どもたちの健康が脅かされています。毎年約 80 万人が不衛生な水や衛生環境が原因で命を落としています。

適切なトイレや手洗い施設がないことで、感染症が蔓延し、特に子どもたちの健康が脅かされています。一番影響を受けるのが小さな子どもたちだという事を理解しておかなければならないと思います。

ロータリーは『水と衛生』を重点分野の一つとし、世界中で持続可能なプロジェクトを推進しています。私たちにできる地域での活動は、学校や公共施設での手洗い施設の整備、衛生教育の実施などが考えられます。「水と衛生」の問題は、健康や教育、経済に直結する重要な課題です。

私たち一人ひとりが、地域や世界の水と衛生の問題に関心を持ち、行動を起こすことが大切です。今日からできることを考えることが、問題解決の第一歩になるのではないのでしょうか。

最後に本日の例会が、ご出席の皆様の新たな発見や気づきの例会になることを願っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

■ **出席報告** 笠原大輔君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
40/49 81.63%	42/49 85.71%

(1)欠席者 (事前連絡とメイクアップをどうぞ)
○朝比奈君○植田君○江崎君○川口君
○佐野博君○鈴木照君○鈴木健君○富澤静君
伊藤彰君

(1)メイクアップ者
漆畑雄一郎君(藤枝) 中山恵喜君(地区)
若林秀典君(地区) 渡邊博文君(藤枝)

食事準備数	食事提供数	残	累計残
43	42	1	18

パーフェクト例会数: 😊😊😊😊😊😊😊😊😊😊

欠席連絡は、当日朝10時前までにお願いします

■ **スマイルBOX** 笠原大輔君

- ・結婚記念プレゼント有難うございます。3月5日が記念日ですが去日、妻から今日は何の日かわかるかと問われ、すぐに何の日かわかりませんでした。 伊藤恒夫君
- ・結婚記念のプレゼントありがとうございました。五十四回目となりました。 小林正敏君
- ・71回目です。信じられない!!
気持ちちは18才!! 内山淑夫君
- ・3月1日 66才になりました。飲み仲間が昼から「もうもう BBQ」でお祝いしてくれて夕方このクラブで1人森下君が来てくれました。ありがとう!ちなみに佐野さんは返事もくれませんでした。 飯田敏之君

スマイル累計額 636,602円

■ **IGM 報告**



8班 杉浦聡君
8班です。去る2月26日(木)18:30～藤枝駅北口の「もつ鍋居酒屋 SENSU」でIGMを開催しました。

出席者はリーダーの加藤会員、サブリーダーの森下会員、それから、漆畑会員、渡邊博文会員、富澤賢一会員、杉浦の6名です。

今回のIGMのテーマは交換留学生のマーテーベンツェ君を通じて、具体的にメンバー同士が手を取り合うために、青少年交換プログラムにおけるクラブの関わり方「文化交流と風習・伝統に触れる為に出来ること」について議論するというお題です。

私の感想ですが、まずは「お互いに少しの好奇心を持って自然体で接すること」が大切なんだと思いました。私自身は昨年10月に長野県の本曾駒ヶ岳の登山に帯同する機会を得ましたが、行く前は言葉の問題や、わが家に宿泊するにあたり、食事は何がいいだろう、また登山なので少なからずアクシデントの可能性があると考えると少々心配事はありませんでしたが、実際は本人と接してみてコミュニケーションの心配はほとんどなく、日本語をよく勉強しているな～の印象でした。

登山前日には登山靴を買いに静岡に出かけましたが、先に立ち寄った書店で彼は日本語の本を購入、更に日本語上達への熱意を感じた場面でした。登山した本曾駒ヶ岳は標高2956m、ハンガリーは丘陵地帯で、なだらかな国土、1000mを超える山は少ないとのこと。だったら日本の山は楽しみはずと思っていたら、本場スイスの山に行ったことがあるとのこと。御見それしましたって感じでした。下山後は初体験となる温泉にも入浴。ハンガリーでは湯船につかるという習慣がないため、彼にとっては我々の日常を体験するだけで刺激的な出来事が多いのだろうと改めて感じた場面でした。

2日目は帰宅が遅くなったため急遽杉浦邸に連泊、翌日は朝食と昼食を兼ね、堀之内の「あきん亭」にラーメンを食べに行ったのですが、そこでの会話が印象に残ります。

登山に同行した私の同級生の一人が教員だったことを伝えると、ハンガリーの教員の待遇の話

になりました。日本では教員の長時間労働が問題になっていますが、ハンガリーでは定時勤務が基本で、残業などはなし、その代わり給料はあまり高くないので、本業とは別にアルバイトビジネスをされる方が多いとのこと。ベンツェ君はそこで日本語を学んだそうです。社会への問題意識など、大人の会話をするんだなと感心しました。

ベンツェ君はこの交換留学で多くのことを学び、今後の人生において国際貢献や社会貢献など幅広く活躍が期待されますが、迎えている我々もこの体験から学ぶことは多いのだろうと肌で感じた2泊3日でした。ちなみに私もハンガリー語の本を買いました。今でも覚えている言葉が1つだけあります。「ケセネム」ありがとうって意味です。皆さんもせっかくの機会ですので、異国のハンガリーを垣間見ること、ロータリーが行う国際的な活動の可能性に目を向けることなど、異なる文化、異なる価値観をご自身が感じる機会にされたいと思います。

10.11(土) 7:50 ベンツェ君を迎えに若林邸へ。翌日の登山に備えトレッキングシューズを買いに新静岡セノバでショッピングを計画。

悪天もあり、午前中は日本のポップカルチャー、映画「チェンソーマン/レゼ篇」を鑑賞。昼食を挟んで午後は靴探し、4件を渡り歩き念願の靴を購入。これで登山装備は整った。翌日の登山に備えこの日は杉浦邸に前泊、家族に挨拶、仏壇に線香をあげ、夕食を共にした。メニューはカレーに揚げ物、サラダを少々、食後にはスタバのコーヒーとデザート。入浴後、早々に就寝。翌日は深夜1:30起床だ。



翌12(日) 深夜2:00 藤枝を出発。同行者は私の同級生登山メンバー、総勢5名。現地、長野県木曾駒ヶ岳駐車場着は5:00。ここまでは順調だったが、行楽シーズンとも重なり超激混み！バス2.5時間待ち、ロープウェイ1時間待ち、実際の登山開始は9:00過ぎ。心配された天候はロープウェイ乗り場(標高2610m)までは晴れ、その後標高が上がるにつれて雲の中へ、千畳敷ロープウェイ

駅からいよいよ登山開始。標高2700m地点での気温は10度、最初の30分は難関の急傾斜。途中、宝剣山荘で豚汁を食し小休止、その後中岳を経て約2.5時間が経過、そして目標としていた「日本百名山の木曾駒ヶ岳」山頂(2956m)にも無事登頂。山頂の気温は強風もあり体感3~5度。期待された絶景は霧中に消された。その後は特別天然記念物の雷鳥の歓迎を受け、和やかな雰囲気の中、下山へ。しかし、下りのロープウェイは2時間待ち。ここに来て疲れと軽い高山病と思われる症状がメンバー全員を襲い、命からがらロープウェイに16:30分乗車、以後30分のバス移動を経て出発地点の駐車場に17:30分に到着。下界の気温は20度

ここから夕食？昼食？名物「明治亭のソースカツ丼」に舌鼓。やっとな腹が満たされ、気分も再び高揚。18:30「早太郎温泉こまくさの湯」に入湯。冷え切った体を温め、疲れを癒し、温泉の所作を学び、予定は大幅に崩れたが、全ての工程を終え20:00帰路へ。途中諏訪湖サービスエリアで夜景を眺め、土産品も購入。藤枝到着は23:30。ベンツェ君24:00杉浦邸2度目の就寝
本当に明るく元気よく頑張った！ ケセネム！
(ありがとう)





7班 中野歩惟君

2/25 (水) 魚時会館にて、リーダー古川会員、サブリーダー小嶋会員、内山会員、佐野(芳)会員、樽井会員、中野の計6名

で開催致しました。

青少年交換プログラムを通して大切だと感じたのは、日本の「日常の暮らし」を体験して頂くことです。特別なイベントだけでなく、普段の生活を過ごすことが、1番日本を感じてもらえるのではないかと思います。

例えば、朝少し早く起きて日の出を見て、和食の朝ごはんを食べる。そして、相撲を見たり、花火を楽しんだりしながら、日本の文化にも触れていただきました。

こうした何気ない日常の体験を通して、日本の暮らしや文化を少しでも身近に感じ、楽しんでいただけたら、私達にとっても大変嬉しく思います。



6班 山田幸保君

6班のIGMは、数野リーダー、植田会員、竹田会員、渡邊芳隆会員、松浦会員、山田に、1月に入会したばかりの中村秀

樹会員を加えた総勢7名で、1月28日(水)に「肴蔵 遊喜智」で開催しました。

今回のテーマは「交換留学生のベンツェ君との交流」。

異国で生活するベンツェ君と、彼を支えるホストファミリーの方々。それをどのようにサポートし、また交流を図るかについて話し合いました。

6班では昨年12月に、2つのイベントを計画しました。

ひとつめは松浦会員に同行しての乗馬体験。大平原を抱え、古くから乗馬文化をもつハンガリー。ベンツェ君にその経験があるかどうかは未確認でしたが、乗馬体験を企画しました。

もうひとつはキャンプ。市内にある「びく石山 静かな夜のキャンプ場」で日常の喧騒を忘れ、文字通り静かな夜を過ごそうと企画しました。

残念ながら諸事情により上記2つのイベントは開催できませんでしたが、メンバー全員がクラ

ブの一員として「サポート」「交流」に非常に前向き取り組んでくださっており、3月1日には数野リーダーの声掛けでベンツェ君が「藤枝マラソン」に参加し3kmを完走しました。

限られた時間の中ではありますがこれからもベンツェ君と交流を図り、お互いに学びを得られるよう努めて参ります。



5班 早川清人君

去る令和8年2月26日午後5時30分より、藤枝駅前的高级居酒屋にて第5班のIGMを開催した。

この日は、本来の第5班のIGMメンバーに加え、鈴木寿幸会長が乱入参加してくださり、充実したメンバー構成で楽しく進行された。

佐野博己リーダーを中心に、2時間余熱く議論が交わされた。議題は、交換留学生についてである。

当クラブが交換留学生を受け入れた折角の機会であることから、私たちは、交換留学生に対しどのように接するべきかにつき忌憚のない意見が述べられた。

メンバーの意見を要約すると、留学生をいつまでもお客様扱いするべきではなく、それは、交換留学生受け入れ事業の本来の目的から逸脱する対応であると自覚すべきである。留学生の教育という観点から留学生に何をどのように体験させ、そのために、私たちは、どのように接するべきかを十分に考えるべきであるとの意見が多く出た。

日本という、そして藤枝という異文化に触れ、日本の生活ルールを教え、自国との違いを理解させることが今後の成長の糧となるはずである。そのために、例えば、休みの日に連れて行くところも、その視点から餞別すべきであろうと考える。藤枝の地に来たのだから、藤枝の歴史や文化を満喫してほしいものである。



4班 小池吉徳君

4班の打合せは、2月6日に「たすく」さんで行いました。

今回は2週に渡り、ベンツェ君との交流イベントを企画しました。

ベンツェ君が藤枝東高校のバレーボール部に所属していることから、まず1回目として、2月15日（日）に東レアローズの男子バレーボールの試合を、草薙の「このはなアリーナ」に観に行きました。その際、ベンツェ君からのリクエストを受け、試合前に東静岡の「柚木の郷」に行き、温泉と昼食を楽しみました。

いざ試合観戦となると、ベンツェ君は「すごい！」「ナイス！」と、バレー部員らしい歓声をあげていましたが、我々素人組は「お〜」とか「うわあ〜」といった奇声に近い声しかあげられませんでした・・・。

続く2回目は、翌週の22日（日）、餅つきの体験を行いました。餅米を竈で蒸すところから始めるため、ベンツェ君には鉋や鋸で薪を作るところからやってもらいました。

普段はつきたてのお餅を「あんこ」「きな粉」「海苔&チーズ」で食べるのですが、今回は鈴木会長がイチゴの差し入れをくださったので、初めて「いちご大福」も作ってみました。

そしてなんと、笠原さんが手作りの「豚汁」を持ってきてくれたので、4種類のお餅と豚汁。そしてデザートの一いちご。

ちょうどお昼ご飯の時間となり、みんなお腹一杯いただきました。

ちなみにベンツェ君は、いちご大福が一番美味しかったそうです。



3班 鷲坂和也君

第3班は、2月24日（火）に駅前の「陽まわり」にてIGMを開催しました。出席者は、中村リーダー、桑原サブリーダー、若林会員、伊藤

会員、鈴木会員、私の計6名です。

ミーティングのテーマは「ベンツェ君のおもてなし企画」についてです。中村リーダーが予め企画案を準備してくださっていたため、話し合いは極めてスムーズに進みました。話し合いの結果、我々の企画は「大井川鉄道で行く列車の旅」となりました。

まだ一部に開通していない区間がありますが、日本で唯一の「アプト式列車」に乗り、お弁当を食べながら車窓を流れる景色を楽しんでいただくという企画です。3月15日（日）に実施する

ことになっています。ベンツェ君は自然が好きと聞いていますので、きっと喜んでもらえると思います。

その後は、若林会員から他国のクラブの状況や東京のクラブの例会の様子などについて教えていただいたり、参加者の皆さんとの情報交換など、とても有意義な時間を過ごすことができました。

2班 大村和宏君



1班 杉山茂範君

1班は2月13日（金）小杉苑1階の杉茶寮にて開催いたしました。初代富澤会長、10代の朝比奈パスト会長、26代の山田パスト会長、27代の江崎パスト会長に加えて杉山というメンバーです。すでに昨年末にもプレIGMを開催しておりとても盛り上がって臨みました。当日は山田さんからの差し入れの八海山 ドジャーズボトルでの乾杯でスタートしました。

ロータリークラブの原点を考えると職業奉仕がベースになり、最終的に会員への還元がある事業を行うべきである。近頃は多岐にわたる事業を行うがやはり会員にとって有益である事業を作り上げていくべきであり、これがEnjoy Rotaryであるとご教授いただきました。

通常では経験することができない濃密な時間を過ごさせていただき、帰りには山田さんより藤枝産の完熟いちごをお土産にいただき、家族も大喜びでした。ご一緒させていただきました皆様には感謝です、ありがとうございました。



例会プログラム

例会日	クラブ行事	摘要
3/13(金) 第 1629回	会員卓話	小杉苑
3/27(金) 第 1630回	桜花鑑賞	びく石山
4/10(金) 第 1631回	PELS 報告	理事会
4/17(金) 第 1632回	ガバナー補佐訪問	小杉苑



今週の一言

樽井勉君



「澁刺颯爽」元
気と力を与える
言葉で、私のポ
リシーです

ただ、20代で
ハゲてきて、ハ
ゲを隠そうとす
ると颯爽ではなくなり
ます。当時2大ハゲが
いて、ハゲは、不潔、
ダサイ、かっこ悪いと
言われていました。一
人は、喫煙パイプにバ
ーコードハゲ、「だいた
いやねえ」の竹村健一。

もう一人は、ダジャレ
と「ガハハハ」の和田
勉。これはイカン、ハ
ゲに元気と力を...と、
頭を剃りまくってツル
ツルにしました。時代
はバブル真っ只中。そ
して、藤枝駅前を歩い
ていると、後ろから若
者達が、「あのツルツル
ハゲのにいちゃん、颯
爽としてカッコイイね
え。俺もハゲてきたら
、ああするんだ」と、
聞こえてきました。

サラリーマン川柳風、
私の好きな言葉「ハゲ
アタマ、元気澁刺、颯
爽と」

おめでとうございます！





山本空 ハンガリー交換留学2月レポート(2026'3'7)

ハンガリーに来て7か月目が経とうとしています。この一か月は特に時間が過ぎるのが早く感じました。大きな出来事はあまりありませんでしたが、この一か月にあったことを紹介します。

2月14日には、ほかの市に住む留学生たちと一緒にブダペストでピクニックをしました。夜には国会議事堂を見に行きました。ライトアップされた建物はとてもきれいでした。

その翌日には、彼らをホストファミリーの家に招き、日本食を振る舞いました。今回は親子丼を作りました。箸の使い方や日本の食事の礼儀なども教えながら食事をし、とても良い時間を過ごすことができました。

2月18日には、クラスの友達に誘われてワークショップに行きました。そこでは自分でスタンプを作る体験をしました。参加していた人の多くは10代でした。ハンガリーには日本のような部活動があまりないため、このような外部の活動が盛んであることを実感しました。

クラスメイトの一人が、ハンガリー語でこのようなメッセージを書いてくれました。

“Sora a király.

Én vagyok Zalán. Sora egy nagy király, mindenki szereti őt az iskolában.

Ő a legjobb cserediák. ő a legokosabb japán diák, akit ismerek.”

これは「ソラは王様だ。学校みんなが彼のことを好きだ。彼は最高の交換留学生だし、私が知っている中で一番賢い日本人だ」というような意味で、とても嬉しかったです。

2月21日には、クラスメイトの誕生日パーティーに参加しました。そこにはクラスメイト以外の人も多く来ていて、とても楽しい時間を過ごしました。日本と比べて、他校の友達とのつながりが多いと感じました。これは、日本のような強い上下関係があまりなく、年齢に関係なく人とつながれる文化があるからだと思いました。

また、クラスメイトを見ていて感じるのは、彼らは自分の意見をはっきり言う人が多いということです。思ったことは遠慮せずに伝える文化があり、それは学校や社会の環境によって育まれているのだと思いました。

もう一つ印象的なのは、彼らがとても多く冗談を言うことです。時々、どれが本気でどれが冗談なのか分からなくなることがあります。クラスメイトには「全部を本気に受け取ってはいけない」と言われました。しかし、日本人の自分からすると、イソップ童話の「オオカミ少年」のように、言葉の信頼性が薄れてしまうのではないかと感じることもあり、文化の違いを感じました。

2月27日から29日には、Debrecenでロータリーのオリエンテーションがありました。これは、これからハンガリーから海外に留学する生徒たちの派遣先国が発表されるオリエンテーションです。私たち留学生は、自分たちの国についてプレゼンテーションを行いました。

金曜日には約3時間かけてDebrecenまで移動し、夜にはボーリングをしました。土曜日にはオリエンテーションがあり、午後にはアクアパークに行きました。ハンガリーで泳ぐのは久しぶりだったので、とても楽しかったです。

ハンガリーにいるアジア人の中では中国人の割合が多く、私はよく中国人に間違われます。最近、自分の顔を見て「自分はアジア人なのだ」と改めて感じるが増えました。時々アジア人差別のようなことを受けることもあります。それを深刻に受け止めすぎるのではなく、笑いに変えられるかどうか大切だと思いながら過ごしています。

ホストファミリーとの関係はとても良好です。皆それぞれ生活リズムが違うため、家の中で会う時間は多くありませんが、会ったときにはよく話します。特にホストファザーにはとても感謝しています。学校の送り迎えをしてくれたり、いろいろな場所に連れて行ってくれたりと、とても優しくしてくれています。

学校生活では、暇な時間ができることも多いですが、それでも楽しく過ごしています。改めて感じたことですが、ハンガリーでは年齢に関係なく仲が良く、日本のような年上への強い敬意の文化はあまりありません。先生との距離もとても近く、第二の両親のような存在に感じます。先生たちは生徒のことをとても気にかけてくれています。

また、ハンガリーではルールや規則よりも「自分が何をしたいか」を重視する文化があるように感じます。他人に迷惑をかけない限り、自分の自由という考え方です。お酒やタバコも10代の間で一般的なものになっており、彼らは自分の意思で自由に生きています。これは、日本に少し足りない部分なのではないかとも感じました。日本では、周囲に合わせることや協調性を感情より優先することが多いからです。

ハンガリー語については、最近少しずつ話せるフレーズが増えてきたと感じています。ネイティブとの会話はまだ難しいですが、成長も実感しています。現在は週に三回、一時間のハンガリー語の授業があります。基本的に会話形式で進み、その場で分からない部分を先生が解説してくれます。これからも毎日少しずつ勉強を続けていきたいと思っています。

(担当/秋谷貴也君)